

二〇〇九年度 一般入学試験 (B日程②)

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は29ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認してください。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んでうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国

語

(60分 100点) (解答番号

1

50)

第一問 次の文章は、青山七恵の『ひとり日和』の一節です。笹塚駅のホームの売店でアルバイトをしている「わたし」(三田知寿)は二十一歳。親戚先にあたる七十一歳の吟子さんの家に居候し、同じ駅で整理員のアルバイトをしている藤田君と付き合っている。これを読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

吟子さんの家には、<sup>(注1)</sup>ホースケさん同様、藤田君専用の水色の箸<sup>(注2)</sup>が置かれている。

駅でわたしの顔を見ても、もうたいして喜んではくれないのに、<sup>(1)</sup>どうして一緒にいるんだろう。惰性、という言葉しか思い浮かばない。認めたくないけれども、わたしはまた同じパターンに陥<sup>(注2)</sup>っている気がする。陽平と藤田君がわたしにとる態度はときどき似ている。本を読んでいるときに邪魔されたときの言葉とか、自分から歩調を合わせないところとか。

わたしは、秋になって茶色い背広を着込んだ彼の働く姿や、電車の行く末を見つめる横顔から相変わらず目が離せないでいる。家にいるときの投げ出した足の汚い爪<sup>(注3)</sup>や、面倒そうにわたしを見る目でさえ、これはずっと続いていけばいいのと思っている。  
(中略)

笹塚駅に女の子のホーム整理員がやって来た。一目見たとたん、不安に駆<sup>(注2)</sup>られた。来るべきものが来たな、という感じだ。彼女はきびきびとして、<sup>(3)</sup>無<sup>(注3)</sup>駄な動きがなかった。目が合うと、売店までわざわざ近づいてきて、わたしに声をかけた。

「糸井です。よろしくお願ひします」

人なつこい犬みたいな目をしている。少し茶色い髪は、帽子からはみ出て後ろでひとつにくくつてある。

「三田です。よろしくお願ひします」

わたしの返事を聞くと、彼女は笑顔を見せて自分の持ち場に戻って行った。<sup>(注3)</sup>一條さんが指導している。小柄な彼女には茶色い

ズボンがぶかぶかで、肩パッドも大げさだった。人の波に押しつぶされそうで、わたしは腕章が何度もずり落ちた。

九時十分、藤田君が彼女に近寄って何か声をかけるのを見た。しっかり目に焼き付けてから、わたしは静かに目を閉じる。再び目を開けると、彼らはもう離れていた。

その日、わたしは一人で家に帰ってきた。最近、駅の外で待ち合わせて一緒に帰る回数は減ってきている。ひまなので、コンパニオンのアルバイトをまた少し増やした。藤田君も、新宿のレストランで夕方から働きだしたらしい。ハイチ料理を出す珍しいレストランなのだという。なぜそんなところで働くのかと聞いても、「紹介されたから」という返事しか返ってこなかった。ハイチも新宿も、わたしにとつては同じくらい遠いところに思える。

家に帰ると、玄関にはホースケさんの革靴があった。わたしはそのまま家には入らず、環八通りにソ<sup>(5)</sup>って歩いていき、区民プールで水着を借りて長いこと泳いだ。ごみ焼却場の熱を利用して、温水プールだ。おばさんたちが列を作り、中年の男性講師に引き連れられて水中ウォーキングをしている。秋の平日のプールに、若い女はわたしくらいしかなかった。頭が

6

するまで泳いで、プールサイドで休んだ。ベンチに横になっていると、窓の外の風景がやけにくつきりと目に映る。葉がなくなくて枝ばかりの花壇の向こうに車の往来が見えた。道の端に捨ててあったビニール袋が強風に舞って、信号待ちをする車のフロントガラスに貼<sup>は</sup>り付いている。歩道を走る自転車は前に行く歩行者が邪魔で、ハンドルを切りかねている。

<sup>(7)</sup> 今ごろ、家では吟子さんとホースケさんが仲良く落雁<sup>らくがん</sup>でも食べながらおしゃべりしているんだろう。

ホームで働く女の子はわたしと糸井さんくらいしかないので、彼女はわたしと仲良くしたいらしい。よく、声をかけてくる。「あったかいね」「涼しいね」「寒いね」などと。藤田君は彼女のことを「イトちゃん」と呼んだので、わたしも同じように呼んだ。ホームの二人は、人の波にまぎれて、近づいたり、離れたりする。彼らが近づいていくところを見ると、胃を両側からひっぱられているかのように、体の中がじいんとする。見たくないのに、見てしまう。<sup>(8)</sup> くせになるつらさだ。

4

した。整理員、と書かれた

イトちゃんが藤田君の袖をつまんで、何か言った。二人はこちらを振り返って、遠くからわたしを見つめた。気付かないふりをして、ガムやキャンディなどの補充をする。

「今日、一緒にご飯食べない？」

九時十五分になって、ホームを去っていく男の子のあとから、イトちゃんが声をかけてきた。

「え、今日？」

「うん。藤田君も一緒に」

「うん、いいよ。あたし十一時あがりだけど、いい？」

「付き合ってるの、知らなかった。さつき聞いた。ミタちゃんてずっとこつち見てるね、って藤田君に言ったら教えてくれた」

わたしはえへへ、と笑ったが内心おだやかでない。おじさんが缶コーヒーを差し出してきたので、イトちゃんは「じゃ」と言  
って階段に駆けて行った。「どうしよう」と呟いたら、おつりを受け取ったおじさんが「あ？」と聞き返した。

宝くじ売り場の脇のベンチに座ってわたしを待っていた二人は、微妙な距離を保ちつつ楽しげにおしゃべりしていた。かつてあたりを照らしていた夏の光は消えてしまっ  
て、アイス屋も店じまいしている。店の前に降ろしてある白と青の縞柄ののぼりは、吹きさらしになっているせい  
で今では捨てられた毛布のような風情だ。イトちゃん  
とわたしの髪の毛は同じくらいの長さだ。アデイドスのスニーカーをハいているのも同じ。小さな手提げかばんし

か持っていないのも同じ。見ていたら、自分がイトちゃんの出来の悪いコピーのように思えてきた。わたしを待っていたこの一  
時間半ほどのあいだに、二人はああしてずっとしゃべっていたのだろう。かわす言葉からお互いをあれこれさぐって、距離を  
縮めていたのだろう。藤田君が他の女の子としゃべっているのを、ほとんど見たことがないのに気付く。藤田君とは、いつも二  
人きりだった。吟子さんはともかく、他の人とどんなふうにしやべるのかなんて、想像したこともなかった。

突然、あそこで足を組んで笑っている彼が、自分とはまるで無関係な人間に思えてきて、余計に足がすくんだ。帰ろう、と思  
ったところで二人に気付かれた。

「おおい、ミタちゃん」

イトちゃんは立ち上がって手を振った。いい笑顔だ。見ていると気分が晴れる<sup>(16)</sup>。わたしもつられて笑った。

わたしと藤田君が並んでテーブルに着いた。向かいのイトちゃんのかわいい笑顔を見ていればまだ落ち着く。彼女はおしゃべりで、<sup>(17)</sup>気取りがない。それなのにわたしはこの上なく居心地が悪い。イトちゃんの顔の上に、吟子さんのしわだらけの顔を思いついてみたが、気分は少しも晴れなかった。隣の藤田君はポテトをもそもそと食べている。ときどき何か言って彼女を笑わせている。イトちゃんに合わせて笑っている自分自身を、後ろから見ているような感じがした。同時に、そんな自分をさらに誰かに見られているような感じもした。

「ごめん、ちよつと用が」

わたしは立ち上がった。

「なんだよ」

<sup>(18)</sup>藤田君が迷惑そうに見上げる。イトちゃんは心配そうな顔をしている。

「今日、ばあさんの病院に付き添うんだった。ごめん、ほんとごめん。失礼」

わたしはテーブルに千円札を置いて駅に向かった。思いきり走ったので、わき腹が痛くなる。

ホームから見る笹塚の空はすっきりと晴れていた。視線を下げると駅前のケヤキ並木の下には絶えず人の往来があり、わたしはそこに二人の姿を探した。

(青山七恵『ひとり日和』による)

(注1) ホースケさん——吟子さんの男友達。

(注2) 陽平——「わたし」の昔の恋人。

(注3) 一條さん——笹塚駅の駅員。

(注4) 落雁——きな粉や麦粉などに砂糖や水あめを混ぜて練り固めた干菓子。

問1 傍線番号(1)「わたしはまた同じパターンに陥っている気がする」とあるが、「同じパターン」の内容の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

1

- ① 恋人が「わたし」に依存するばかりなのに、自立を促そうとしないでいるということ
- ② 恋人の心は完全に冷めているのに、自分ではどうしているのかわからず知らんふりをしてしていること
- ③ 恋人が「わたし」に愛想を尽かしているのに、その理由を考えて改善しようとしなくていること
- ④ 恋人が「わたし」と別れたいそぶりを見せているのに、気付かないふりをして追い回していること
- ⑤ 恋人の「わたし」に対する関心が薄れていることに気付きながらも、あきらめきれないでいること

問2 傍線番号(2)「来るべきものが来たな」とあるが、これは何を表しているのか。その説明として、最も適切なものを、次の

- ①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

2

- ① 藤田君から「わたし」に別れを切り出す日が来たということ
- ② 藤田君の心をとらえそうな女の子が登場したということ
- ③ 職場でのライバルになりそうな新人が入って来たということ
- ④ 「わたし」や藤田君が苦手なタイプのアルバイトがやって来たということ
- ⑤ 「わたし」が会ったことのないほどの素敵な女の子が現れたということ

問3 傍線番号(3)・(5)・(9)・(12)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

3  
 ↓  
 7

(3)

無ダ

3

- ① ダ開策を採す  
 ② ダ当な判断を下す  
 ③ ダ落した生活を責められる  
 ④ ダ作だと酷評される  
 ⑤ 最後の一言はダ足であった

(5)

ソって

4

- ① 舞台で熱エンする  
 ② 会社のエン革を話す  
 ③ 試合がエン長になる  
 ④ エン者を頼って上京する  
 ⑤ ライバルに声エンを送る

(9)

ホ充

5

- ① 株式をホ有する  
 ② ヒグマをホ獲する  
 ③ 説明をホ足する  
 ④ これ以上の譲ホはあり得ない  
 ⑤ ホ装工事をする

(12)

ハいて

6

- ① リ発な子供  
 ② 故人の財産を管リする  
 ③ 面影が脳リに浮かぶ  
 ④ 支リ滅裂な言動  
 ⑤ 英語をリ修する

(14)

かわす

7

- ① ケン賞に応募する
- ② 父のダイ理で出席する
- ③ 社会のヘン革を目指す
- ④ 部屋のカン気をする
- ⑤ 彼とは没コウ渉である

問4 空欄番号

4

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

8

① うきうき

② そわそわ

③ じりじり

④ はらはら

⑤ しぶしぶ

問5 空欄番号

6

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

9

① くらくら

② はきはき

③ ひりひり

④ だらだら

⑤ ずんずん

## 問6

傍線番号(7)「今ごろ、家では吟子さんとホースケさんが仲良く落雁でも食べながらおしゃべりしているんだろう」とあるが、この一文の持つ表現効果として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

10

- ① 仲むつまじく過ごす男女の姿とは対照的な、傷付け合うしかない藤田君と「わたし」との関係を強調している
- ② いたわり合って生きる男女の姿とは異なり、若さゆえに反発し合う藤田君と「わたし」との関係を暗示している
- ③ 落ち着いた付き合いを続ける男女の姿と対比させることで、不安定な藤田君と「わたし」との関係を際立たせている
- ④ 助け合う男女の姿とは正反対の、孤独感を深める「わたし」とそれに気づかない藤田君との寂しい関係を印象づけている
- ⑤ 適度な距離を保つ男女の姿を描くことで、平行線をたどる藤田君と「わたし」とが今後歩む運命を予感させている

問7

傍線番号(8)「くせになるつらさだ」とあるが、なぜこのように言うのか。その理由を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

11

- ① 藤田君がイトちゃんとおしくしていても気にはしないが、藤田君の気持ち自分から離れていくようなら注意しなければならぬと思うから
- ② 藤田君がイトちゃんに近づく様子など見たくはないが、藤田君のことがまだ好きな「わたし」は二人の様子が気になつて見ずにはいらぬから
- ③ 藤田君にイトちゃんが好意を持っていることは明らかだが、イトちゃんと「わたし」は親友なので二人の友情を守るためには黙つて見ているしかないから
- ④ 藤田君に対してイトちゃんは無関心だったのに、藤田君のアプローチで少しずつ親密さが増す様子を遠くから見ただけの自分が菌がゆいから
- ⑤ 藤田君はイトちゃんのこと好きではないはずなのに、「わたし」の気持ちを逆なようにイトちゃんと仲良くする姿を見せつけてくるのが腹立たしいから

問8 傍線番号(10)「内心おだやかでない」とあるが、その理由を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から

一つ選びマークしなさい。

12

① 「わたし」と藤田君が付き合っていることを知りながら、イトちゃんが二人の仲を邪魔しようとして三人での食事を提案しているとしたか思えないから

② 「わたし」と藤田君が付き合っていることなど問題にせず、三人で食事をしようとするイトちゃんを信用しない方がいいのではないかと勘ぐってしまうから

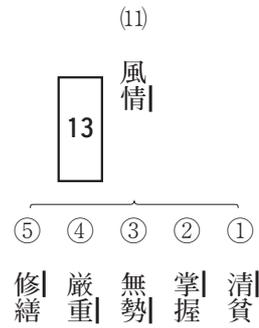
③ 「わたし」と藤田君が付き合っていることをイトちゃんが知ったとわかって、三人で食事に行くと藤田君とイトちゃんとがますます接近するような気がするから

④ 「わたし」と藤田君が付き合っていることを知らないふりをして、わざわざ三人での食事を提案してきたイトちゃんの意味が理解できず不安になったから

⑤ 「わたし」と藤田君が付き合っていることを認めたくないイトちゃんが、藤田君との親しさを見せつけて「わたし」にいやがらせをする気ではないかと疑ったから

問9 傍線番号(11)と同じ読みものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13



問10 傍線番号(13)「自分がイトちゃんの出來の悪いコピーのように思えてきた」とあるが、ここから「わたし」のどのような気持ちがかげえるか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① イトちゃんと「わたし」とは、何から何までよく似ているという安堵感<sup>あんぞ</sup>
- ② 「わたし」は無意識のうちに、イトちゃんのまねばかりしているという敗北感
- ③ イトちゃんと「わたし」は全く違うのに、どこか共通点があるかのような違和感
- ④ 外見も性格も、「わたし」はイトちゃんに似ているようで似ていないという不安定感
- ⑤ イトちゃんに似ているところがあるのに、「わたし」には勝ち目がないという劣等感

問11 傍線番号(15)～(17)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。

15

17

(15) 足がすくんだ

15

- ① ひどく疲れて倒れそうになった
- ② 危険を感じて急いで逃げ出した
- ③ 緊張したり気後れしたりで動けなくなった
- ④ どうすることもできなくて困り果てた
- ⑤ 興奮して落ち着かなくなった

(16) 気分が晴れる

16

- ① 思うように物事が進んで気持ちが浮き立つ
- ② 疑いがなくなり安心する
- ③ 気持ちがすっきりと明るくなる
- ④ やる気が満ちてくる
- ⑤ 満足して自分の気持ちが落ち着く

(17) 気取らない

17

- ① 自分がその場を盛り上げようと気を遣うことをしない
- ② 自分をよく見せようと体面を飾ることをしない
- ③ 自分が好かれようと相手にへつらうことをしない
- ④ 自分に関心を引きつけようとおどけることをしない
- ⑤ 自分の言うことに従わそうと威張ることをしない

問12

傍線番号(18)「今日、ばあさんの病院に付き添うんだっ」とあるが、このときの「わたし」の心情を説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18

- ① 三人で食事をしているときの疎外感と居心地の悪さに我慢できなくなり、適当な口実を作ってもこの場を立ち去りたいと思っている
- ② 楽しそうにしている二人に嫌悪感を抱き、ここから逃げ出すことができれば吟子さんの病院に付き添う羽目になってもかまわないと思っている
- ③ その場の気まずい雰囲気にしたたまれなくなり、病院に行くという吟子さんに付き添うことで気分を落ち着けたいと思っている
- ④ 二人を残していくのは気がかりだが、吟子さんとの約束を破ることへの良心の呵責かてきには耐えられないので早く帰ろうと思っている
- ⑤ 三人で食事をしていても恋人を失った自分にはつらいばかりで、誰にも気を遣わなくて済むように一人になりたいと思っている

問13

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

19

- ① 藤田君とのことで一喜一憂していた「わたし」だったが、イトちゃんが現れたことで自分の言動を慎むようになった
- ② イトちゃんはわだかまりのない様子で「わたし」と接しているが、偏屈な「わたし」はそれを受け入れられずにいた
- ③ 藤田君は無意識のうちではあるが、「わたし」の前であつてもイトちゃんに対して好意を示すような行動をしていた
- ④ イトちゃんの登場によって、「わたし」はぎくしゃくしていた藤田君との仲が疎遠になっていくような予感を覚えていた
- ⑤ 藤田君との不仲が原因で不安になって神経質な行動をとる「わたし」のことを、吟子さんはひそかに心配していた

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

医療人類学の研究成果は(1)人間のもつ身体観の内容が複雑であること、(2)身体観は生存の内容との関係において成立するため多様性が豊かであること、(3)身体は、当該文化のシンボル体系の中に組み込まれており、多重の意味を持つ存在として認識されていること、(4)従って、当該文化の人々の持つ世界観の一部として身体観が成立しており、人体それだけが切り取られるのではなく、個人の身体と自然環境との関係、身体と動物との関係、他の人間との関係等が身体上に何らかの兆候として現れるとみなす傾向が強いこと、を明らかにした。

身体がシンボル体系の中に組み込まれて多重の意味を持つというのは以下のことを指す。身体に何らかのシヨウ害が生じた場合、それはその個体の内部だけの变化ではなく、その人と周囲の人々との関係性において、あるいは神や精霊や野生の動物や祖先の霊との関係において異常が発生したととらえる。身体に、人間を取り巻く世界が映し出されると共に、世界にも人間の身体が映し出される。家屋や村落空間や太陽や月、天空と大地という存在も人間の身体が映し出されたものとして理解される。それは言語上の比喩としてではなく、人体を含む世界を理解するうえでの人々の理解のチャンネルである。例えば、日本でもかつて「満潮に合わせて人は誕生する」とか「潮の干満のどちらかに人は死ぬ」といい、「満潮はまだだから出産までには時間がある」と言った。

現代でも、気温や太陽の照射時間の長短、気圧などの気象が人の気分や血圧などに影響することは証明されているが、上記のような人体が世界の一部であり、世界を反映するという身体観においては、そうした3の関係が取り上げられての説明ではなく、人々が世界として認識しているものの全てが人体と直接影響し合うと考えられている。先の潮の干満と人の誕生(出産)と死との関係は、気圧の急激な変化が人の気分に影響を与えるというレベルではなく、人間の存在は海と陸とから成る世界の中に存在し、太陽と月の動きの大きな時間のサイクルの中の時間を一個の生命が占めて存在しているという世界観の表れである。

当該社会の人々が持つ身体観を明らかにするための方法として、最も有効なのは病氣治療の具体的な方法とそれについての人々の説明の内容である。医療人類学という下位領域が成立する以前から、文化人類学では宗教・信仰の領域で数多くの治療についての資料を集めてきた。現在ではその多くが医療人類学のカテゴリー<sup>(5)</sup>に入れられる。社会によって様々であるが、人々は病気の直接的な原因とそれが人体に与える影響について無知でも無関心でもない。多様な植物が「薬」として採取される。それらを食べたり煮出して汁を飲んだり、乾燥させて煙を出すために燃やしたり、丸めて身体をこすったりする。煮出し汁を浴びたり身体に塗ったりもする。土や牛糞<sup>ぎゅうふん</sup>や蜂蜜<sup>はちみつ</sup>や昆虫の幼虫をすり潰<sup>つぶ</sup>したもの等々が薬として使用される。生物医学あるいは薬理学の領域でそれらが具体的にどのような効用を持つのかはほとんど調査されていない。しかし、そうした治療法およびそれらの薬が効く理由についての説明は調査されており、それらから導き出される説明には、私達<sup>わたしたち</sup>の生物医学的説明に近いものもあるが、多くは、その植物や昆虫に付与されているシンボリックな意味の脈絡の中で採取されている。無数の資源の中から経験的に、治療効果を持つものが選り出されているにしろ、その選択についての人々の側からの理由はやはりシンボル体系においてなされている。

7、文化人類学者が、現代医療の医薬品を持参して調査地に住み込んだ場合、現代医療と接したことのない人々が「よく効くから」という理由で文化人類学者の薬を競ってもらいたがる。その場合人々は、「よく効く」ことの理由を自分達のシンボル体系の中で見出す<sup>みい</sup>ことはしていないので、身体を機械的にとらえる

8 身体観も持っているらしい。

ところが、生命の危機的状況においては、同じ人々が文化人類学者の薬をもらいに来ることもないし、簡易診療所（看護婦が簡単な医療技術の訓練を受けた職員が配置されている）を訪れることもない。人々は伝統的治療師によって「何が原因でこのように重篤な状態に陥ったか」<sup>(10)</sup>を占ってもらったうえで、伝統的治療を受ける。重篤な症状や長びく症状あるいは<sup>(9)</sup>トク異な症状をもたらす原因と、頻繁に体験する発熱や身体<sup>(10)</sup>のどこかの痛みや腹痛や下痢といったものの原因とは別種であり、重篤な状態はすなわちその人の存在が危うくなっていると解釈されて、その人の存在と関わる種々の脈絡の中で原因がさぐられる。

細部においては多様性はあるが、文化人類学および医療人類学の成果から推測される身体観は、個人の身体はいくつかのレベ

ルを移動しながら存在しているか、同時にいくつものレベルにまたがって存在しているものであるらしい。11、個体に限定されているレベル、周囲の人間関係によって影響を受けるレベル、祖霊や創ソウ神など世界全体を支配するものにおけるレベル等それぞれのレベルに身体は存在し、状況に応じていずれのレベルかが前面に出てくるというものである。

13、<sup>(14)</sup>個人の存在と身体との関係も、私達のそれとは異なっている。私達は自分の身体は私という存在そのものであり、私自身の物理的存在を示すと同時に私という人格の表象であると考えている。身体の死は、私の人格の消滅である。死体は、暫くは意味を持った存在であつたり生前の人格を残していると周囲の人々がみなす時間帯はあつたとしても、やがて死体は処理され、生前の人格は失われる。一方、前産業化社会あるいは現代医療と対置される医療体系を保持している人々にあつては、個人の身体は個人の人格を担うものであると同時に、それ以外の存在を表象することもある。さらに、他の人の霊や死者の霊、動物の霊や神が個人の身体の中に入り込み、本来の人格を追い出して居据わることもあると考えられている。あるいは、個人の身体に表れたある種の印は、自然界の兆候であるとも考えられ、個人の身体は個人に限定された空間ではないと考えられている。

「心」「意識」「精神」いずれの言葉も身体に對置するものであるが、現代医学の身体観はこうした心身二元論を否定する。表現はどうであれ、これらの精神的活動（と仮に呼んでおく）は人間の身体が担う活動の一部であり、手足を動かすことも心拍を起すことも言語活動も脳という身体の一部が担っている。従つて「心と身体」という表現は、現代医学においては矛盾するものである。

それにもかかわらず、私達は日常の語り口においても心身二元論的な表現をする。このことは、医療を通して、私達の間には現代医学の身体観が<sup>(16)</sup>シン透しているとはいへ、全面的に私達の身体観に同一化するものではないことを示していると考えられる。

それは、身体と自己存在とが一致する人間個人が自己の身体を完全に物体とみなすことができないという状況から生じており、その状況を変更することも解決することもできない。他人の身体を、それが生きていようと死んでいようと、切り刻むことに何のためらいも持たないベテランの外科医が、自分の肉親の手術や死後の病理解剖を避けるという、一般に<sup>(17)</sup>流布<sup>(18)</sup>されている話こそ

の事情をよく説明してくれる。

現代医療のみが制度化された医療となり、個人の生存も死も死後の身体も現代医療の身体観に支配されることが何をもたらすのか、<sup>(19)</sup>それとは対置される前産業社会・前現代医療化社会の人々の身体観を手掛かりとして、推察することが可能であろう。

(波平恵美子「医療人類学から見た身体」による)

問1 傍線番号(1)「身体は、当該文化のシンボル体系の中に組み込まれており、多重の意味を持つ存在として認識されている」

とは、どういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

20

- ① 世界・身体の間が、互いの中に映し出され、それぞれのありかたを決定すると考えること
- ② 世界の急激な変化が、人間の身体の間が、互いの中に映し出され、それぞれのありかたを決定すると考えること
- ③ 世界と身体とは、いわば互いを映し出す関係にあると、比喩的に理解すること
- ④ 家屋や村落空間や太陽や月といった自然の存在が、人の気分や血圧などに影響すると考えること
- ⑤ 人体は世界の一部ではなく、世界の全てと直接影響し合っていると考えること

問2 傍線番号(2)・(9)・(12)・(15)・(16)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

21  
～  
25

(2)

シヨウ害

21

- ① 船が座シヨウする
- ② こどもに干シヨウしすぎる
- ③ 自分のことをシヨウ生という
- ④ 湖シヨウに棲む魚
- ⑤ 万シヨウを排して出席する

(9)

トク異

22

- ① トク名で雑誌に投稿する
- ② 彼は今どき奇トクな人だ
- ③ 損してトク取れという言葉がある
- ④ 彼はその人トクゆえに慕われる
- ⑤ トク促状が届く

(12)

創ゾウ

23

- ① 党内からゾウ反者が出る
- ② 偶ゾウを崇拜する
- ③ 記念品をゾウ呈する
- ④ ゾウ悪の感情
- ⑤ 人口が自然ゾウ加する

(15)

心パク

24

- ① ハク力のある表情
- ② 正直にハク状する
- ③ 二、三日外ハクする
- ④ ハク手が鳴りやまない
- ⑤ ハク覧会に行く

(16)

シン透

25

- ① 事態がシン展する
- ② 外敵がシン入する
- ③ シン夜に外出する
- ④ 床下までシン水する
- ⑤ シン重な態度

問3 空欄番号

3

・

8

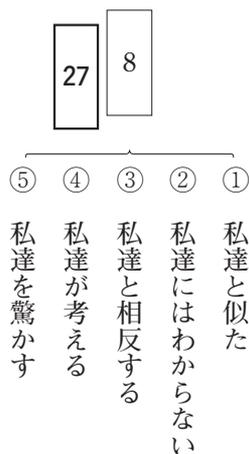
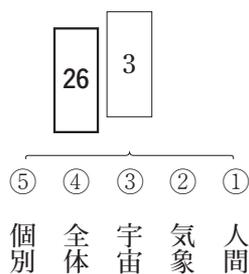
に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選

びマークしなさい。

26

・

27



問4

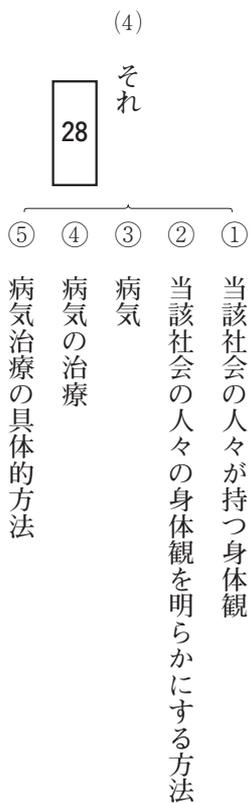
傍線番号(4)・(18)・(19)の指示する内容として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。

28

↓

30



(18) その事情

29

- ① 自分の肉親に対しては手術や解剖を避けるということ
- ② 他人の身体なら切り刻むことに何のためらいもないということ
- ③ 身体と自己存在とが一致するということ
- ④ 私達が自己の身体を完全に物体とみなすことができないこと
- ⑤ 現代医療の身体観と私達の身体観が全面的に対立していること

(19) それ

30

- ① 現代医療
- ② 制度化された医療
- ③ 現代医療の身体観
- ④ 現代医療の身体観に支配されること
- ⑤ 現代医療の身体観の支配がもたらしたもの

問5 傍線番号(5)「カテゴリー」の本文における意味として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

い。 31

- ① 対象
- ② 範囲
- ③ 比喩
- ④ 寓意ぐうい
- ⑤ 階級

問6 傍線番号(6)「シンボリックな意味の脈絡の中で採取されている」の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から

一つ選びマークしなさい。

32

- ① 治療法や薬は、全く根拠のないものに、無理に象徴的意味を持たせて行われているだけだということ
- ② 治療法や薬は、経験に基づき、その文化を代表するシンボルとなるものだけが選ばれているということ
- ③ 治療法や薬は、宗教的なシンボルとして選ばれるため、なぜそれを選んだのかという説明はできないということ
- ④ 治療法や薬は、それらが当該文化の中で持つ、象徴的な意味合いをもとにして決められているということ
- ⑤ 治療法や薬は、経験に基づき、生物学的にも説明できる合理的なシンボルとして選ばれているということ

問7 空欄番号

7

・

11

・

13

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つ

33

く

35

① 従って

② ところで

③ しかし

④ つまり

⑤ あるいは

7

11

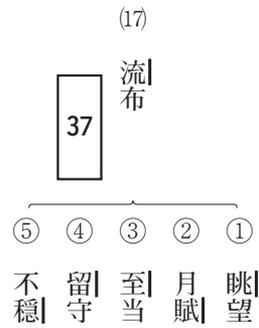
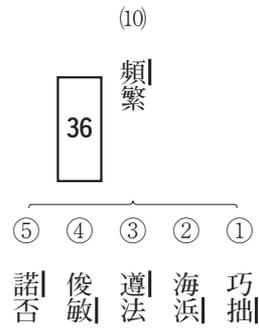
13

33

34

35

問 8 傍線番号(10)・(17)と同じ読みものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。



36

37

問 9 傍線番号(14)「個人の存在と身体との関係も、私達のそれとは異なっている」とあるが、「私達」と「前産業化社会」の人々

の身体観に関する説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

38

- ① 私達は、現代医学に頼りながら、現代医学の身体観を否定しようとする傾向が強い
- ② 私達は、身体を人格としてとらえ、物理的存在としての身体を認めない傾向が強い
- ③ 前産業化社会の人々は、身体を、個人を超えた広がりの中でとらえているといえる
- ④ 私達は、心身二元論を全く受け入れることができず、全てを脳の働きとしてとらえている
- ⑤ 前産業化社会の人々は、身体を霊や自然との関係でとらえ、個人の人格を認めていない

問10

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

39

- ① 医療人類学が成立したことによって、はじめて現代医学とは異なる医療のありかたが注目されるようになった
- ② 前産業化社会の人も、現代の医薬品を求めることはあるが、生命の危機的状況においては、それに頼らない
- ③ 現代医療にばかり頼りがちな私達は、前産業化社会の人々の豊かな身体観を学ぶことで、伝統回帰する必要がある
- ④ 文化人類学が対象とする社会の人々は、病気の原因や影響には関心を払わず、専ら自己の世界観に寄りかかっている
- ⑤ 医療人類学は、当該文化の人々の身体観を明らかにしてきたが、それは現代人の身体観とは全く相容れないものであった

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

(注1) 六波羅の太政入道、福原の京建てて、皆わたりて後、ことのほかに程へて、古京と新京といづれかまされると言ひ定めをせ(1)んとて、古京にのこり居たるさもある人ども皆呼び下しけるに、人皆入道の心を恐れて、思ふばかりも言ひひらかざりけり。長(注2)方卿ひとり少しも所をおかず、この京をそしりて、言葉も惜しまず散々に言ひけり。さてもとの京のよきやうを言ひて、つひにその日の事、かの人の定めによりて、古京へ帰るべき儀になりけり。後にその座に有りける上達部の、長方卿に会ひて、「さ(注3)てもあさましかりし事かな。さばかりの悪人の、いみじと思ひて建てたる京を、さほどにはいかに言はれしぞ。言ひおもむけて(注4)帰京の儀あればこそあれ、言ふかひなく腹立ちなば、いかがしたまはまし」と言ひければ、「この事、我が思ひには似ざる儀なり。(注5)入道の心になはんとてこそさは言ひしか。そのゆゑは、ひろく漢家本朝を考ふるに、よからぬ新儀行ひたる者、初めに思ひ立つ折は、なかなか人に言ひ合はする事なし。そのしわざ少し悔しむ心ある時、人には問ふなり。これもかの京、ことのほかに居つきて後、両京の定めを行ひしかば、はや、このこと悔しうなりにけり、といふことを知りなき。されば、なじかは言葉(注6)を惜しむべき」とぞ言はれける。まことに、後に人に超えられんとしける時も、この入道よきやうに申して、「長方卿は、このほかに物おぼえたる人なり。たやすく人に超越せしむべからず」とて、後までも方人をせられけるなり。(注7)梅小路中納言の(注8)両京の定めとて、その時の人の口に有りけり。(注9) (注10)

『続古事談』による

(注1) 六波羅の太政入道——平清盛。

(注2) 長方卿——藤原長方。歌人。後に権中納言従二位に昇進した。梅小路中納言と呼ばれていた。

(注3) かの入道——長方のこと。

(注4) 方人——味方。

問1 傍線番号(1)「せ」の文法的説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

40

- ① サ行変格活用動詞      ② サ行下二段活用動詞      ③ 過去の助動詞      ④ 使役の助動詞      ⑤ 尊敬の助動詞

問2 傍線番号(2)・(6)の「入道の心」の具体的な内容として、最も適切なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選びマ

ークしなさい。ただし、重複は避けること。

41

42

- ① 新京に人々を呼び集めたこと  
② 新京への遷都を推し進めたこと  
③ 古京と新京のどちらがいいか決めかねていること  
④ 新京に移った人々を非難していること  
⑤ 古京に再び遷都しようとしていること  
⑥ 新京に遷都したことを後悔していること

41

42

問3 傍線番号(3)「所をおかず」の本文における意味として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① 間髪を入れないで
- ② 場所をわきまえないで
- ③ 腹を立てないで
- ④ 遠慮をしないで
- ⑤ 地位を気にしないで

43

問4 傍線番号(4)「あさましかり」の本文における意味として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

44

- ① 根性が卑しい
- ② 不思議である
- ③ 驚きあきれる
- ④ 嘆かわしい
- ⑤ 見苦しい

問5 傍線番号(5)「帰京の儀あればこそあれ」の解釈として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① 再遷都の決定があつたのでよかつたけれど
- ② 再遷都の相談がうまくいったとしても
- ③ 新京に移住した人々の帰京がうまく許可されたとしても
- ④ 新京に移住した人々に帰京するように説得できたけれど
- ⑤ 古京にいる人々を新京に移住させる決定が下されて

45

問6 傍線番号(7)「なかなか」の本文における意味として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① すぐに
- ② むしろ
- ③ ずいぶんと
- ④ しみじみと
- ⑤ ますます

46

問7 傍線番号(8)「このこと」が指す内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

47

- ① 新京に遷都したこと
- ② 古京に再遷都したこと
- ③ 古京への再遷都を決めたこと
- ④ 都をどこにするか決めかねていること
- ⑤ 都をどこにするか人々に相談したこと

問8 傍線番号(9)・(10)の「られ」の文法的意味の組み合わせとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

48

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ⑤    | ④    | ③    | ②    | ①    |
| (9)  | (9)  | (9)  | (9)  | (9)  |
| 尊敬   | 可能   | 可能   | 受身   | 受身   |
| (10) | (10) | (10) | (10) | (10) |
| 受身   | 受身   | 尊敬   | 自発   | 尊敬   |

問9 入道は長方卿のどのような点を評価しているのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

49

- ① 記録を残しておく点
- ② 知識が豊富である点
- ③ 判断力が優れている点
- ④ 無欲である点
- ⑤ 性格が温和である点

問10 『続古事談』は説話集であるが、これと同じジャンルの作品として、適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

50

- ① とはずがたり
- ② 梁塵秘抄りやうじんひじょう
- ③ 風姿花伝
- ④ 古今著聞集ここんちよもんじゆ
- ⑤ 花月草紙